

平成29年度笠岡市立白石中学校学校経営計画

笠岡市立白石中学校

学校教育目標 豊かな心を持ち
自ら学び
たくましく生きる生徒の育成

校訓 「自学・強健・協力」

指導の重点 1. 創造性に富み、主体的に学習に取り組む生徒を育てる。
2. 生徒活動の活性化をはかり、自主性と自律心のある生徒を育てる。
3. ふるさとを愛し、地域と共に生きる心豊かな生徒を育てる。
4. 人権を尊重し、国際的視野をもった生徒を育てる。

研究主題 **少人数学級における指導法の工夫・改善
～自らの学びを振り返る「まとめ」と「振り返り」の工夫～**

1. 本校のミッション（使命・存在意義）

本校は、1年生3名、2年生4名、3年生2名の極小規模校である。島内の主産業は、観光と漁業であるが、過疎化・高齢化・少子化が急速に進んでおり、島の未来は生徒の生き方に大きく左右される。また、「白石踊」に代表される島の文化の伝承についても小・中学校の活動に負うところが大きく、地域から大きな期待が寄せられている。

本校の本年度の教育においては、**特別支援学級が開設されて2年目**となり、より一層個に応じた指導・支援をする体制が整い、基礎的・基本的な学力を身につけることで、自分自身の生き方への展望をもたせることが可能となった。発達障がいへの理解と対応の工夫を教職員で研修し、全ての学習指導全体に生かして、「分かりやすい授業や指導」を工夫して実施したい。同時に高い能力をもつ生徒もおり、発展的な課題も提示してさらに可能性を広げたい。

また、島の文化や自然から多くのことを学ぶことで、**郷土である白石島を愛し、ふるさとに誇りを持ち、社会の一員として共に生きようとする心豊かで自立した生徒を育成することは、本校の重要な使命である。**

2. 学校内外の環境分析

① 校内の環境

- 生徒は純朴で素直な気質で、落ち着いた生活態度である。
- 地域の社会環境がよく、生徒は地域に見守られて健全に育っている。
- 極少数人数であるため、個人指導が行き届く反面、主体性を育てるためには意識的な活動や指導が必要である。
- 学習や生活で配慮の必要な生徒の支援を図り、一人一人の生徒が、将来の展望をもちながら生活できる力を育成することが必要である。
- 小学校と同じ敷地内にあり、小中の連携がとりやすく、避難訓練・給食・運動会等合同で実施する行事がある。
- 体育館がなく、B & G海洋センター体育館や小学校体育館を利用しているが、十分活動できる。
- 教職員は、一人が受け持つ校務分掌が多く、さまざまな分掌を広く経験できるが、分掌上の負担は大きく、効率的な取組が求められる。また、非常勤講師が多く、時間割の調整が必要である。

② 校外の環境

- 名勝「鎧岩」や国指定重要無形民俗文化財「白石踊」等、白石島ならではの自然や文化が多くあり、夏の海水浴を含め、豊富な観光資源がある。
- PTA、学校評議員会は小中合同で組織しており、本校の教育活動に大変協力的である。
- 「白石踊会」や「地区青少協」等、学校への協力が得られる団体や個人が多く、物心両面での支援をいただいている。地域住民は、中学生の活躍を楽しみにしており、地域と連携した学校教育活動に大きな関心を寄せている。
- 白石中学校は、海洋少年団やバドミントン部、全国発明工夫展などで華々しい成績を残した伝統があり、地域は教育に対する期待感をもっている。**
- 「島づくり委員会」という島の活性化に対して意見を発信する機関がある。

3. ミッションの追求を通じて実現しようとする本校の学校経営ビジョン
(将来像、めざす姿)
- (1) めざす学校像
- 生徒が、私の学校とふるさとの伝統を誇れる学校
 - 教職員にとって働きがいのある学校
 - 白石中でしか学べないことがある学校
 - 地域から信頼され、保護者にとって我が子を通わせたい学校
- (2) めざす生徒像
- 自立した人間として、自分を磨きつつ、夢に向かって粘り強く学ぶ生徒
 - 人権感覚があり、他人と協調し、思いやりのある心豊かな生徒
 - 礼儀や、社会のマナーを身につけた、あいさつのできる生徒
- (3) めざす教職員像
- 教職員としての使命感を自覚し、教育目標の具現化をめざす教職員
 - 生徒を理解し、情熱をもって自立への支援に努める教職員
 - 多様な経験を積む中で協働して課題解決に当たるなど、生涯にわたって学び続ける教職員
 - 保護者・地域社会との連携を深め、特色ある学校の創造に努める教職員
4. 当該年度の具体的な学校経営目標・目的
- 地域と連携した豊かな心の育成と開かれた学校づくりの推進
 - ・「白石踊」伝承活動の充実（白石踊会との連携）
 - ・学校だよりや、学校ホームページでの積極的な情報発信
 - ・総合的な学習の時間（リサーチ活動）を中心とした地域高齢者や豊かな自然からの学び（地域指導者との連携）
 - ・学校評議員会、オープンスクールの充実
 - ・あいさつ運動の推進
 - 基礎的・基本的な学力の定着と進路指導の充実
 - ・指導者を招いて教員相互の授業参観をし、研修会を実施する。
 - ・授業目標とまとめがしっかり連動している授業（板書・ノート等まとめの充実）
 - ・ICTを活用した指導方法の工夫
 - ・学習習慣の定着、家庭学習の充実
 - ・個別指導の徹底（放課後、長期休業中の利用）
 - ・いきいきチャレンジたいけん活動等によるキャリア教育の推進
 - ・ALTを活用した授業から、英語コミュニケーション能力の体得と国際理解教育の推進
 - 小学校・中学校の連携
 - ・教科教育における連携（相互の公開授業）
 - ・小中合同企画、小中連携会議、小中合同行事の充実
 - ・その他日常の教育活動における児童・生徒の交流、教職員の連携
 - ・白石っ子の『身に付けたい力』をもととした支援の連携
 - 特別支援教育の推進
 - ・発達障がいについて、正しく理解するための研修
 - ・配慮が必要な生徒の自立支援に向けた、指導の工夫の教職員研修
 - ・関係諸機関との連携と他校との情報交換
 - 人権教育、道徳教育の推進
 - ・人間関係づくりの推進（生徒集会・学級活動等による仲間づくりやコミュニケーション力の育成）
 - ・月1回全校生徒9名による合同道徳授業を全職員が受け持ち、順番に公開する。
 - ・系統的な人権教育指導計画に基づく人権学習の実施
 - ・総合的な学習の時間における地域高齢者からの学びや地域福祉施設訪問等を通じた、共生社会の実現に向けた実践力の育成
 - ・体験活動の充実や地域連携を通じた道徳教育の充実
 - ・情報モラル教育の推進

- 防災教育・学校安全の推進
 - ・小中合同の避難訓練等による防災意識の育成
 - ・夜間や休日の災害での避難方法の確認と地域への要請
 - ・傷病者の緊急搬送対応の確認
 - ・登下校の安全確保と校外行事での指導体制の見直し（危険箇所の確認等）
- 保健指導・教育相談の充実
 - ・インフルエンザ流行期の保健指導の徹底
 - ・健康観察や給食後の歯磨き等による基本的な生活習慣の確立
 - ・スクールカウンセラーを活用した教育相談事業の実施
- 学校給食を通じた食育の推進
 - ・朝食を食べる習慣の家庭への啓発
 - ・献立表や地場食材、特色ある献立のホームページでの紹介
- 教職員の育成、成長の支援
 - ・若手教員と先輩教員が共に育つような校内チームを構築し、教員としてあるべき姿やプロ意識等、仕事の進め方を学ぶとともに、指導技術の確実な伝承を行う。
 - ・ICTを用いた指導法、小学校英語や道徳教科化への対応、特別支援教育の充実等、新たな教育課題に対応した研修の実施。
 - ・校内研修リーダーの養成と校内研修実施のための手段や資源等の整備を実施する。
 - ・キャリアステージごとの育成指標を明示し、職能成長を支援する。
 - ・チームの一員として組織的・協働的に取り組み、保護者や地域から信頼される教職員の育成
 - ・効率的に業務を遂行できる実践力の育成を支援する。
 - ・各事例に応じたコンプライアンス研修を行い、自己を律する心を高める。

5. 学校経営計画における白石中の特色

- 小中連携を基盤とし、地域と連携して、
ふるさとを愛し、自立してたくましく生きる、心豊かな生徒を育てる。